

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。

このテーマについて考えるために、^{わたし}私たちは、8月1日に防災指令センターの施設見学を行いました。

そこで^{わたし}私たちは、^{つうほう}通報者への^{たいおう}対応や、^{ひょうじ}事案受付表示灯、ドローン、^{よび}予備のきん急車両などの安全にくらすためのシステムを見て、聞いて、知りました。

そして、電話以外でも^{つうほう}通報できるなどの最新のシステムと^{つうやく}通訳があることで、外国の人でも安心して^{つうほう}通報ができることがわかりました。

その後、^{わたし}私たちは施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

私は、名古屋を安全で安心してくらせるまちにするために、二つのことを提案します。

一つ目は、熱中しょう対策をもっと強化することです。私は、防災指令センターで非常に多くの119番通報がある様子を目の当たりにしました。このことを知り、私は通報の中で最も多い救急の通報を減らすことが安全なまちづくりに必要なことと考えます。その方法として、歩道に直射日光を防げる日かげやミストシャワーをたくさん設置してほしいです。

次に、防災情報についてです。私の家では、防災無線の音がよく聞こえません。なので、私はスマートフォンで防災情報を確認しますが、お年寄りの方にはスマートフォンを持っていない方が多いので、そういった方法で確認できないと思います。このことから、私は、防災無線の音質の向上と、お年寄りの方には危険度数を示すランプを配布し、毎日市役所から発信できるようなシステムがあるとよいと思いました。

○子ども議員

名古屋市には、何百万人もの方が住んでいます。何百万人もの方がいれば、当然火事が起きたりします。火事から人の命や大切な財産を守ってくれるのが、私たちが行った防災指令センターです。

その中の、ドローンを使ったシステムは、空から火事の情報を入手でき、現場でしかわからないことをいち早く知ることができます。そのおかげで、人の命や財産が助かると思います。名古屋を安心して安全に過ごすことができるまちにするためには、ドローンが火事を見つけたら自動的に通報できるようにするといいと思いました。

○子ども議員

ぼくは、119番通報^{つうほう}が目や耳の不自由な人のためにファックス119、メール119、そしてことしできたN e t 119きん急通報^{つうほう}システムを使えば、電話以外でも119番通報^{つうほう}ができることがとても便利だと思います。

ぼくは、この119番通報^{つうほう}をする方法がふえていけば、いたずら通報^{つうほう}もふえるかもしれませんが、障害者^{しょうがい}も119番通報^{つうほう}が安心してとてもやりやすくなると思います。

○子ども議員

わたし^{わたし}は、外国人と防災指令センターの人と通訳^{つうやく}との三者通話が印象に残りました。そのとき思ったことは、通訳^{つうやく}がいることで、防災指令センターの人も外国人の人も安心して通話ができることです。

わたし^{わたし}は、三者通話ができることにびっくりしました。なぜなら、ふつうは2人で通話するのに、3人で通話できるからです。

わたし^{わたし}は、通訳^{つうやく}がいないととても大変なことになってしまうことに、通訳^{つうやく}がいてくれてとてもありがたいなと思いました。そして、外国人や防災指令センターの人^{ぼうさい}も安心して通話ができることにわたし^{わたし}はすごいなと思いました。

○子ども議員

防災指令センターでは、命や財産^{ざいさん}などを守るために一秒でも早く指令を出す工夫がされています。中でも印象に残ったことは、外国人からの119番通報^{つうほう たいおう}の対応です。

ぼくは、「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、市民一人一人が火災^{かさい}を起こさない意識^{いしき}を持つような取り組みをさらに強く呼びかけたらいいと思います。

○子ども議員

名古屋市を「安全で安心してくらすことができるまち」にするには、それぞれの家の安全設備^{せつび}やその家の人の心構え^{がま}をしっかりとすべきだと思います。

家の安全設備^{せつび}は、家具の固定や防災グッズの中身と置く場所などの確認^{かくにん}です。特に防災グッズの中身は、非常食^{ひじょう}や水の消費期限^{きげん}の確認^{かくにん}を定期的に行わなくてはなりません。置く場所は、覚えやすく持ち出しやすい場所じゃないといけないし、高温^す過ぎると中のものがくさったりしてしまうので、注意が必要だと思いました。このようなことをすると、安心安全にくらすことができると思います。

○子ども議員

私は、施設見学をして、多言語通訳事業者がいたり、電話機以外でもきん急通報ができたりして、外国の人や障害のある人などの通報に対応していることがすばらしいと思いました。これからもさまざまな人が安心できる仕組みをつくることが大切だと思います。

また、災害が起きたときの対応だけでなく、ひ害を減らす工夫も必要だと思います。例えば、つ波が来たときにひ難できるような高くてしょう夫な施設や、ひ難所の地図や案内板がまち中にたくさんあれば、みんなすぐわかって、安心安全なまちになると思います。

○子ども議員

私たちは、防災指令センターの施設を見学しました。目が見えない人、外国人や言葉が話せない人でも通報できるようになっていました。火事や災害が起きてしまっても、素早く対応できるシステムがあることを知りました。

私は、みなさんにこのような防災指令センターのシステムがあること、そして、もし災害が起きてしまってもあせらず落ちついて119番通報をすることが大切であるということを伝えていこうと思います。

○子ども議員

私^{わたし}が施設^{しせつ}見学で最も印象に残ったことは、通報者^{つうほう}への対応^{たいおう}です。だれにでもとても冷静^{たいおう}に対応していたし、電話以外でもファックスやメール、スマートフォン等から通報^{つうほう}ができるというシステムがあって、すごいと思いました。

さらに、外国人からの119番通報^{つうほう}にも対応^{たいおう}していて、英語、中国語、韓国語^{かんこく}、ポルトガル語、スペイン語など多言語^{つうやく}通訳事業者の方との三者通話^{たいおう}で対応しているそうです。私は、いろいろな通報^{つうほう}の仕方があったので、今後活用してみたいなと思いました。

○子ども議員

私^{わたし}は、防災指令センターを見学して思ったこと、感じたことは、通報^{つうほう}を受けた指令センターの人は目げき情報^{じょうほう}やその様子を冷静に聞いていました。

火事^よのときも、救急車を呼ぶときも、救助要せいの第1報^{ほう}を聞く指令センターの人たちの判断^{はんだん}が正確^{せいかく}でないと、人の命にかかわるときもある、とても大きな仕事をしているんだなと思いました。私^{わたし}たちの大事な命を守ってくれると感じました。

わたし

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第6委員会の発表を終わります。

■ 近藤都市消防委員長の答弁

それでは、第6委員会のみな様、大変におつかれさまでございました。3日間という大変限られた期間ではありましたが、子ども委員長と子ども副委員長を中心に、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」について、防災指令センターへの見学を通じて、真けんかつ活発な議論を重ねて、素晴らしい意見発表に結びつけてくださいました。



そして、全委員が「安全で安心してくらすことができるまち」にするための意見を考えて、元気に堂々と発表することができましたことを本当にうれしく思っております。

施設見学をさせていただきました防災指令センターでは、市民の生命と財産を守るためのさまざまなシステムについて見学をさせていただきました。特に、119番通報をされる内容によって、点灯するランプの色分けがされる事案受付表示灯、これは、実は委員の方が質問する前まで、この名前が決まっていませんでした。質問をしたところで当局さんが答弁にとまどい、その場で実はネーミングをされた、こういういきさつもございました。

この事案受付表示灯や、火災現場においてドローンを使用し、情報^{じょうほう}を入手するためのシステム、予備^{よび}の救急車を待機させていることや、外国人通報者^{つうほう}に対する多言語通訳事業者^{つうやく}を介した三者通話^{かい}による対応^{たいおう}についてなど、一分一秒でも早く通報者^{つうほう}に対しきん急車両を出動させるため、消防局^{しょうぼう}の職員^{しよくいん}さんが一生けん命がんばってくださっている姿^{すがた}や、最新えいのシステムについて見学をさせていただくことができました。これらについて、たくさんの意見や質問^{しつもん}が出たことを大変にうれしく思っております。

また、実際にきん急車両を出動させる体験もさせていただくことができるなど、貴重な体験^{きちよう}がたくさんできたと思います。

また、一人一人の意見発表の中でも、「安全で安心してくらすことができるまち」について、市民一人一人が火災^{かさい}を起こさないような取り組みをさらに強く呼びかけてはどうか、消防^{しょうぼう}の仕事について話すイベントを開さいしてはどうか、また、市民の防災意識^{ぼうさいいしき}を高めるための取り組みの必要性^{せい}、そしてどんな人でも安心して119番通報^{つうほう}することができる方法をさらにふやしていくこと、家具の固定や防災グッズ^{ぼうさい}の確認^{かくにん}など、各家庭における取り組みの強化など、たくさんの意見や提案^{ていあん}をみなさんからいただくことができました。

今回の子ども議員^{きちよう}のみな様方からいただきました貴重なご意見^{ごいあん}やご提案^{ごていあん}について、私^{わたし}ども大人の議員^{しよくいん}も、そして名古屋市の職員^{しよくいん}のみな様も、しっかりと受けとめさせていただき、市政^{しせい}に反映^{はんえい}できるよう取り組んでまいりたいと思っております。

そして、みな様方を見習わなければならないことは、きょう、議場^{ぎじょう}に入ってびっくりしましたが、こんなにたくさんの傍聴者^{ぼうちやう}のみなさんに来ていただいているということでございます。みなさん方の

がんばりのたまものであると思いますが、日ごろの我々の議会よりもたくさんの傍聴者におこしいただいているなと思う次第でございます。我々大人の議員もみなさん方を見習って、しっかりと市民のみな様に注目をしていただき、たくさんの傍聴者を呼べるような、そんな議会にもしてまいりたいなと思った次第でございます。

どうか、第6委員会の委員のみな様においては、今回の貴重な経験を生かして、市民の大切な生命と財産を守るため、学校や地域、そして各家庭における防災のリーダー、そして安全で安心なまちづくりを推進するリーダーとしてのご活躍を期待している次第でございます。

最後となりましたが、委員会運営にご協力をいただきました市会事務局のみな様、消防局を初めとする市職員のみな様、教育委員会の米山先生、そして服部副委員長、日比副委員長に心から感謝を申し上げます。そして、最後に、子ども市会への趣旨にご賛同いただき、子どもたちをこのように送りこんでくださいました傍聴者のみな様、各家庭のみな様に心からお礼を申し上げさせていただきます。答弁とさせていただきます。

みなさん、本当にありがとうございました。我々も楽しい時間をいっしょに過ごさせていただきました。

